「10 兆円構想塾」
100 人委員会
第一回八ヶ岳会議

2012 年 12 月 8 日(土曜日)午後 1 時から午後 6 時

於　北杜市明野町　明野ふれあいの里太陽館 2 階展望会議室

会議概要

「１０兆円構想塾」１００人委員会であることを参加資格として、発足当時から開催を予定しておりました「八ヶ岳会議」を開催いたしました。

それぞれの地域で活動されている１００人委員会の委員が自主的に集まり、自らの活動を紹介しながら、他の委員の活動を知り、日本の田舎資源を活用した「10 兆円構想」実現に向けて、有意義な情報交換を行いました。また、今回は特別プログラムとして、開催地である山梨県北杜市が誇る２つの再生可能エネルギー施設の視察も行いました。

プログラム

12:30	会議会場受付開始
13:00	会議開始
13:30	八ヶ岳再生可能エネルギーツアー
15:30	事業プランワークショップ
16:30	”八ヶ岳杯”事業プランコンペ選考会
17:10	”八ヶ岳杯”事業プランコンペ結果発表
17:30	会議終了

実施概要

会議開催の一週間前に起こった中央自動車道笹子トンネルの崩落事故の影響で、直前のキャンセルや交通手段の変更等での混乱もあり、また当日の天候は 12 月初旬としては異例の真冬並みの寒さで、会場の八ヶ岳周辺は朝から雪で、開催中も雪が舞い続ける荒天となったこともあり、16 名（内 3 名は当日キャンセル）の参加で開催いたしました。

曽根原代表による開催の挨拶後、全員でバスに乗り込み、「八ヶ岳再生可能エネルギーツアー」に出発致しました。

バスの中では曽根原代表の人口約 5 万人、面積は東京都 23 区とほぼ同じという、「日本一の日照時間」と「豊富な水資源」が特徴の北杜市の概要説明の後、各地から集まった参加者の自己紹介でコミュニケーションを深めました。

最初の訪問地、北杜市高根地区にある「六ケ村堰（ろっかむらせき）小水力発電所」は、北杜市が平成 19 年 4 月に稼働した発電所で、農業用水路を流れる水を貯めることなくそのまま使用する水路流込式の横軸フランシス水車と呼ばれる形式の水車を使用した、認可出力 320kw の発電能力を持っています。

http://www.city.hokuto.yamanashi.jp/komoku/shisei/ondanka/1305554633-38.html

また、全国的にも珍しいことにこの農業用水路には他に 3 つの小水力発電所があり、合計 4 つの発電所の年間推定発電量は約 7,000mWh となり、北杜市世帯の約 10%（約 2,000 世帯分）の年間電力消費量に相当します。

水路の大きさ、落差、設備の規模等を実感いただき、実際に見学した施設 1 つで年間 2,400 mWh の発電力（一般家庭約 600 戸分）があるという話に驚きの声が上がっていました。

次に北杜サイトと呼ばれる長坂地区にあるメガソーラー施設に移動しますと、雲行きがさらに怪しくなり、吹雪の様相となってまいりました。

http://www.city.hokuto.yamanashi.jp/komoku/shisei/ondanka/1308236277-46.html

北杜サイトは、2008 年から実証研究施設として NEDO からの委託で北杜市と NTT ファシリティーズにより運用が開始されましたが、2011 年からは北杜市営発電所として運用されています。およそ 10ha という広大な敷地に広がる様々な種類の太陽光パネルを目にして

驚かれる参加者もいらっしゃいました。しかし、本当に驚かれていたのは、これだけの広さの太陽光発電所での発電量が、年間およそ 2,000 mWh ということで、先に見学した小水力発電所とほぼ同等の発電量だったという事実でしょう。それも、日本一といわれる日照時間（年平均日照時間約 2,300 時間）を誇るこの地域での発電量ですので、小水力発電と比較して随分と効率が悪いと感じられた方が多くおられました。

http://www.ntt-f.co.jp/profile/event/pdf/bk22/mega_pamphlet.pdf

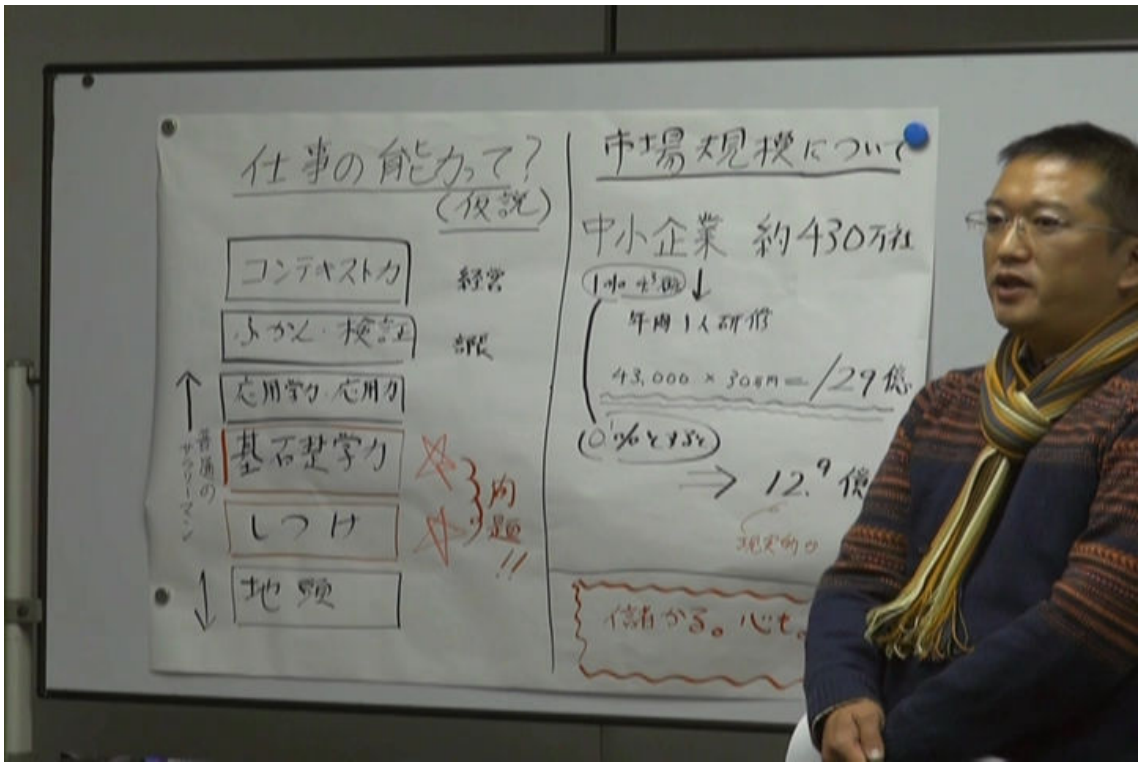
一行は、曽根原代表の運営する NPO 法人えがおつなげての古民家事務所に立ち寄り、築 200 年を超える建物を見学しながら会議会場に戻り、10 兆円に挑む「八ヶ岳杯」事業プランコンペが開催されました。

短時間ではありましたが、自分の行っている事業、これから行おうと考えている事業を同じ班に割り振られたメンバーに説明し、質問を受け、もう一度考えてみることで、別の視点からプランを見直す機会になったのではないかと思います。さらに班毎に一番いいと思われる事業を選び、参加者全員の前で発表し、参加者全員がそのプランを評価するという作業を行っていただきました。その結果 “ゆとり世代の再教育事業” が第一回「八ヶ岳杯」に選ばれました。

発表された内容は以下に紹介します。

第一回「八ヶ岳杯」事業プラン
プラン名：ゆとり世代の再教育事業

事業を行っていく中で必要な資源は「カネ」、「モノ」、「ヒト」といわれていますが、中心となるのはやはり「ヒト」と思われます。
そんな中、「ゆとり世代」と呼ばれる若手の社員が受けてきた教育が、これまでの世代とギャップがあり、意思の疎通が図れないということを感じることが多くなっています。
共通言語、共通認識が保てないことが最大の原因と思われます。
特に、中小企業での人材教育の負担は非常に大きく、負担となっています。
しかし、頭ごなしに「根性」論を押しつけても伝わりません。
そこで、その分野を農業という自然を相手にした仕事を経験して、気付く機会を与えるという教育プログラムを作成して、全国の中小企業に対してアプローチできないでしょうか。
農業体験が人間の根幹となる部分に働き掛け、考え方や仕事に取り組む姿勢に変化が出るのではないかと考えます。



事業の規模は、統計上の中小企業 430 万社のうち、0.1%が一人の社員を出して、30 万円の教育費用を支払うと仮定すると、下記のようになり、実現可能なプログラムとなるのではないでしょうか。

300,000 円　×　4,300,000 社×0.1%　＝　12.9 億

イメージを次ページに掲げます。

『ゆとり世代人材』の再教育事業

なのに

最も重要な人材に異変

ゆとり世代

ゆとり教育を受けた90年代生まれの世代

共通の言語がない！

理解度・認識のギャップ

でも

スパルタ
根性
３Ｋ

そこで

仕事の能力（外部要因からダメージを受けている）

経営 ← 管理職 ← サラリーマン

- **コンテキスト力**（空気を読む力）
- **俯瞰・検証**（全体を把握する）
- **応用力**（活用する力）
- ~~**基礎学力**（基本）~~
- ~~**しつけ**（社会への適合）~~
- **先天性**（生まれながらに備えたもの）

人材のこの部分を再教育　　**市場規模（仮定）**

対象企業：全国の中小企業430万社の0.1%　4300社から各1名

教育費用：30万円／人　→　12.9億円　（仮説）

発表事業プラン

プラン名：感性を育む寺子屋プロジェクト

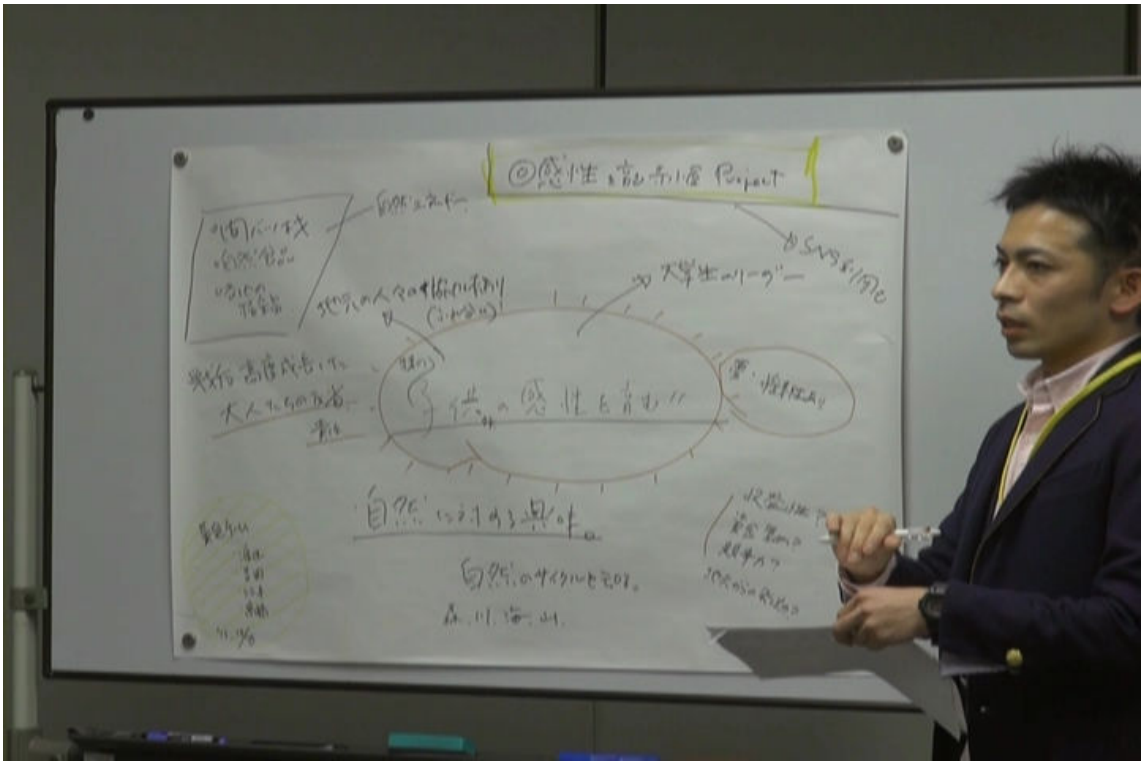
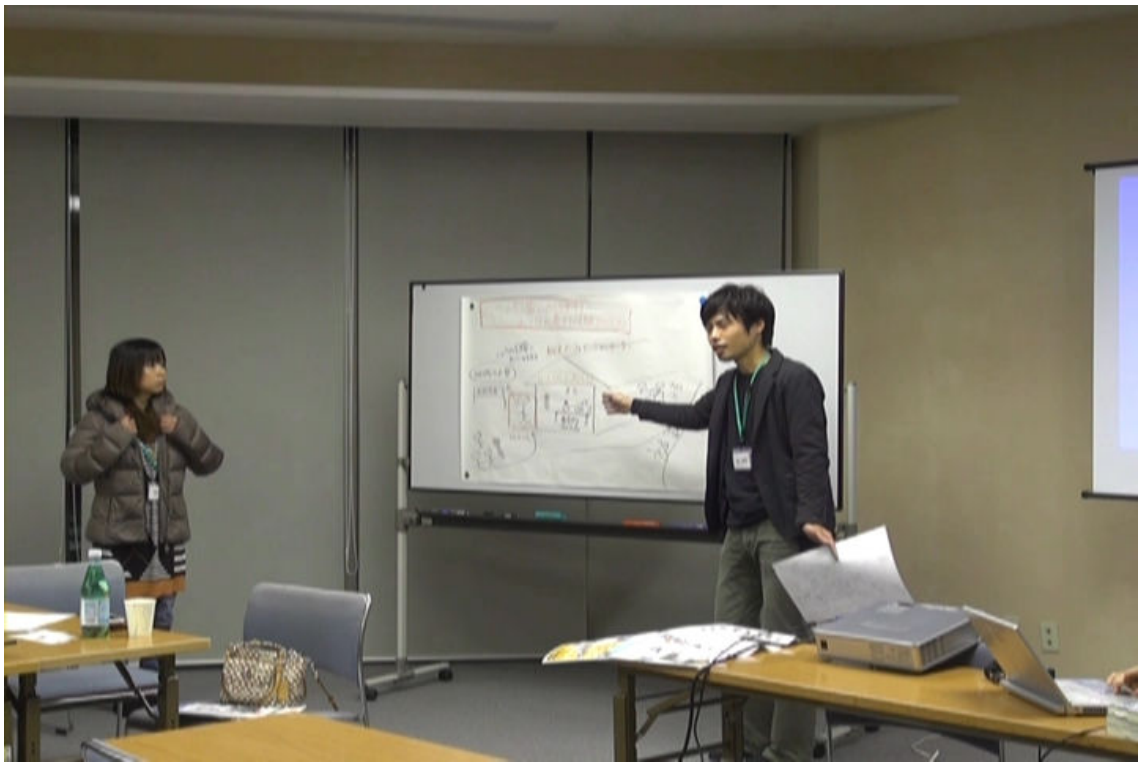
子供若者マッチングという環境をテーマにしたボランティア活動を都心部で行っていて、最近強く感じることは、都会の子供の自然や田舎に対しての興味が強いことです。これは、知らないことへの興味と思われます。

そこで、安心して自然にふれられる機会を増やしてあげることはできないだろうかと考えました。

都心部に拠点をつくり、寺子屋として子供たちを集め、様々な要素を盛り込み、体験を提供してあげれるような仕組みを作ってみたいと思います。

例：間伐材の利用・積み木などの遊び、農業との関わり・おむすびをむすぶ（縁結び)、学生をリーダーに・etc

子供達の感性を育むことを目的として、関わる人間の感性も一緒に育める人材育成として、興味を持つ関係者をファンにしていくことで、都心と田舎のパイプとなる仕組みとなればいいと思います。



発表事業プラン
プラン名：村の日常にお邪魔する、おきなわ農村体験プログラム
沖縄県名護市には、海外沿いの 10 地区が共同で出資して建築した“わんさか大浦パーク”という地域興しを目的とした設備があります。
現在は、野菜等の物販、加工施設での加工品生産、飲食店、マングローブの川でのカヌー体験ツアー等を行っています。
地域課題解決型の事業として、地域での雇用の創出が、若年層の定住を促せ、コミュニティービジネスをベースに経営を成り立たせたいと思っています。
残念ながら、オープンから 2 年ですが、黒字化できていないのですが、地域の方のチャレンジを支えられるような、インキュベーションセンターの機能を持たせたいと考えています。
今後は、観光を中心にとらえて、地域の日常が最大の魅力に感じられる施設にしていきたいと思います。
10 の地域が集まっているので、それぞれの文化的な活動がバラエティに富んでいて、幅広い情報提供ができることを、地元民によるコンシェルジュサービスや、地域の人の溜り場と環境客との接点を持たせる等、自然な形で紹介できるような場にしていきたいと思います。